

硬式野球部 沿革

元号		西暦	
大正			
4	1915	県立海草農林学校廃校	県立海草中学校 創立
10	1921	海草中学 硬式野球部 創部	創部者（丸山直廣氏・和田庸之助氏）
昭和			
4	1929	第6回選抜大会（春）	初出場 西山徳郎ー山脇正治バッテリー ベスト8
		第15回選手権大会（夏）	初出場 西山徳郎ー山脇正治バッテリー 準優勝
6	1931	第8回選抜大会	2年ぶり2回目 エース森田俊男、サード荒川秀美 2回戦敗退
7	1932	第9回選抜大会	2年連続3回目 エース荒川秀美、ライト森田俊男 2回戦敗退
8	1933	第10回選抜大会	3年連続4回目 森田ー荒川バッテリー 控えに宮本市太郎
		初戦 対桐生中で森田投手がノーヒットノーランを達成	ベスト8
10	1935	第12回選抜大会	2年ぶり5回目 エース宮本市太郎 ベスト8
		第21回選手権大会	6年ぶり2回目 エース宮本市太郎 2回戦敗退
12	1937	第23回選手権大会	2年ぶり3回目 エース島清一 ベスト4
13	1938	第15回選抜大会	3年ぶり6回目 エース島清一 ベスト8
		第24回選手権大会	2年連続4回目 エース島清一 1回戦敗退
		第16回選抜大会	2年連続7回目 エース島清一 1回戦敗退
		第25回選手権大会	3年連続5回目 エース島清一 センター古角俊郎 サード真田重蔵
14	1939		5試合連続完封で初優勝
		初戦の嘉義中を3安打で完封すると、京都商業も2安打完封、米子中も完封し、準決勝の島田商業戦は17奪三振のノーヒットノーランを達成、続く決勝戦の下関商業戦も2四球のみで2試合連続ノーヒットノーランを記録した。	
		2試合連続ノーヒットノーランは大会史上唯一、決勝戦でのノーヒットノーランも、平成10年夏に横浜高の松阪投手が達成するまで史上唯一の記録であった。	
		第17回選抜大会	3年連続8回目 エース真田重蔵 2回戦回戦敗退
		第26回選手権大会	4年連続6回目 エース真田重蔵 2連続優勝
15	1940		初戦の対平壤一中戦は大勝したが、準々決勝の京都一商戦は、延長戦の末に辛勝。準決勝で松本商を破った後、決勝では一言投手（セネターズ）がエースの島田商と対戦、加納の3塁打で決勝点をあげ、2年連続して優勝した。以後エース真田で3季連続して出場した。
		第18回選抜大会	4年連続9回目 エース真田重蔵 1回戦敗退
16	1941		春の近畿大会 真田が滝川中の小林章良選手（松竹ー大洋）と延長25回の大激戦の末、1対0で勝利を収めている。
		第27回選手権大会	紀和大会を制し出場権を獲得するも戦火のため大会が中止。
18	1943		戦争激化のため廃部。
21	1946		戦後すぐに硬式野球部復活
22	1947	第19回選抜大会	5年ぶり10回目 エース畔取厚 2回戦敗退
		第29回選手権大会	6年ぶり7回目 エース伊沢修 2回戦敗退
23	1948		和歌山県立 向陽高等学校に改正
25	1950	第3回春季近畿地区大会	初出場 1回戦敗退回戦敗退（県大会 初優勝）
27	1952	第5回春季近畿地区大会	2年ぶり2回目 1回戦敗退（県大会 優勝）
		県新人戦	準優勝
36	1961	第14回春季近畿地区大会	9年ぶり3回目 ベスト8（県大会 優勝）
39	1964	第17回秋季近畿地区大会	初出場 準優勝（県大会 準優勝）
		第37回選抜大会	18年ぶり11回目 エース野崎恒男（南海ー太平洋ー近鉄） 2回戦敗退
40	1965		県新人戦 初優勝
		第18回秋季近畿地区大会	2年連続2回目 ベスト4（県大会 初優勝）
43	1968		県新人戦 2年ぶり2回目 優勝
		第21回秋季近畿地区大会	3年ぶり3回目 2回戦敗退（県大会 3年ぶり2回目の優勝）
		第41回選抜大会	4年ぶり12回目 エース藪上敏夫（南海） 1回戦敗退
44	1969		県新人戦 2年連続3回目 優勝
		第22回秋季近畿地区大会	2年連続4回目 2回戦敗退（県大会 2年連続3回目優勝）
45	1970		県新人戦 3年連続4回目 優勝
47	1972	第25回秋季近畿地区大会	3年ぶり5回目 ベスト4（県大会 準優勝）
48	1973	第45回選抜大会	4年ぶり13回目 エース梶谷紀英 1回戦敗退
		第26回秋季近畿地区大会	2年連続6回目 初優勝（県大会 準優勝）
		第46回選抜大会	2年連続14回目 エース梶谷紀英 1回戦敗退
49	1974	第27回春季近畿地区大会	13年ぶり4回目（県大会 3位）
		夏の和歌山大会、向陽として3度目の優勝するも、紀和大会において奈良県立郡山高に1対5で敗れる。	
53	1978		この年より、選手権大会（夏）の出場校が、1県1校に
58	1983		夏の和歌山大会 準決勝まで進出
平成			
2	1990		真田重蔵選手 野球殿堂入り
		県新人戦 準優勝（翌春の選抜出場の前島高に4対5で惜敗）	
10	1998		幻の甲子園を実現 1941年（昭和16年）選手権大会への出場権獲得していた、前年に激戦をした海草中・島田商が甲子園での4度目の対決をこころまちにしていたが、大会が中止。
		島田商創立70周年を記念して、58年ぶりに島田市営球場で再戦を果たした。当時の両校のメンバー、志水清選手たちも参加。	

16	2004	春季近畿地区大会県予選でベスト8に進み、準優勝の皇林高に3対4で惜敗した。
17	2005	第87回選手権大会 戦後60年の節目の今大会では、開会式入場行進の先導役を戦前最後の優勝校であるということで本校の田村祐摩主将を務めた。
20	2008	島清一選手 野球殿堂入り(特別表彰) 第90回選手権大会 8月15日終戦記念日に大会14日目の第1試合開始前に表彰式が行われた。 島選手と同期の古角俊郎氏と加森禎人主将が代表して、花束レリーフを受け取った。
21	2009	第62回春季近畿地区大会 和歌山県大会 48年ぶり4回目優勝(5回目の出場) 近畿地区大会は、新型インフルエンザの影響で中止 第62回秋季近畿地区大会 36年ぶり7回目 1回戦敗退(奈良1位校の天理高に3対4と惜敗) (県大会 準優勝)
22	2010	第82回選抜高校野球大会 21世紀枠により出場決定 第82回選抜高校野球大会 36年ぶり15回目 2回戦敗退 藤田達也一大槻司バッテリーの活躍により45年ぶりの1回戦勝利 第63回春季近畿地区大会 和歌山県大会 3位 2年連続6回目出場(前年近畿大会中止のため) 近畿地区大会は、報徳学園に敗戦(1回戦敗退) 第92回全国高校野球選手権 和歌山大会 準優勝(36年ぶり決勝進出) 日本学生野球協会 2010年度表彰選手に西岡俊揮主将が選ばれる(向陽で初受賞)
23	2011	第64回春季近畿地区大会 和歌山県大会 ベスト4 (東山拓一津村バッテリーの活躍で3年連続 夏のシード権獲得) 第93回全国高校野球選手権 和歌山県大会 ベスト8
26	2014	第96回全国選手権 和歌山県大会 ベスト8
28	2016	平成28年度県下高校野球新人戦 46年ぶり4回目 優勝
29	2017	第99回全国高等学校野球選手権 和歌山大会 ベスト8
30	2018	平成30年度春季近畿地区高等学校野球大会 県予選 ベスト4 第100回全国高等学校野球選手権記念 和歌山大会 ベスト4
31	2019	平成31年度春季近畿地区高等学校野球大会 県予選 ベスト8
令和		
2	2020	新型コロナウイルス感染拡大のため全国選抜高校野球大会、全国選手権大会ともに中止 和歌山県独自大会 2020夏高校野球和歌山大会を開催 令和2年度秋季近畿大会1次予選ゾーン代表、2次予選ベスト4
3	2021	令和3年度春季近畿地区高等学校野球大会 県予選 ベスト8 令和3年度県下高校野球新人戦 ベスト8
4	2022	令和4年度県下高校野球新人戦 ベスト8